

令和2年11月11日
社会福祉法人真正会 施設ケア部
教育担当マネジャー 鈴木 宏明

20代で入職して、初めての土地に来て早いもので14年が経ちました。ユニットケアは真寿園が初めてで、全てのことが新鮮に感じていたことを思い出します。

「介護心得」を読むと初心に戻ることができ、この仕事に初めて就いた時の気持ちを思い出させてくれます。現在、毎月一項目をユニットの目標にしています。

14. ときには、自分の考え方や、援助の方法について助言を求めましょう。

ときには、自分の考えを改めて見直し、考え直すことの必要があるものです。介護に当たってこれでよいのだろうか、自分中心の主義、主張、行動に走っていないだろうか。何か大事なものが抜けてはいないだろうか。自問自答の中では見出せないものがきっとあるはず。 「今」行っている援助についても同じことで、忙しいとつい自分しか見えなくなります。その結果、相手の気持ちも、心も読めなくなります。そんなときに、上司、先輩、同僚に助言を求める心の余裕と、立ち止まって考える時間を持ちたいものです。

経験年数が長くなり、役職にも就くと、助言を求められることは多くなってきます。私が役職に就いた頃は余裕がなく、自分で何でもやらなくてはならないと思っていたので、助言を求めることもあまりできていなかったと思います。また、経験年数が長い、人に聞くのが恥ずかしいなどが理由にありました。一方で、自分の考えが正しいのかと悩むことも多々あって、今思えば素直に助言を求めることができたらどんなに楽だったかと思います。

今ではチームとして1人の入居者のことを考えた時に、職員の年代、性別、性格などによりいろいろな意見が出ることによって入居者の生活が豊かになるのではないかと思います。そのためには、自分の考えに固執せず、自分が伝えたいことをしっかりと伝えるとともに、経験年数や役職にとらわれずに素直に相手の意見を聞き、そして謙虚な姿勢でいたいと、この「介護心得」を読んで感じました。これからも悩んだ時には立ち止まり、「介護心得」に目を通したいと思います。

次の No. 15は、真寿園総合支援部の須賀雅夫さんにバトンをお渡しします。よろしくをお願いします。